

病的ギャンブリングの 現状とネットワーク による支援

雷門メンタルクリニック 伊波真理雄

病的賭博の呼称

- 病的ギャンブリング
Pathological gambling (ICD-10 F63.0)
- ギャンブル依存症(通称)
Dependence of gambling
- 強迫的ギャンブル
Compulsive gambling
- プロBLEMギャンブリング
Problem gambling

医学上の定義

- 持続的で反復的な不適応的賭博行為として特徴づけられ、それによって経済的問題、また個人的、社会的、または職業的機能の破滅を引き起こす

Company name

くり返される不適応的賭博行為とは？

- 生活上の費用や借金を払うために、お金を工面しようとギャンブルをする
- 負けた後で、すぐに負けを取り戻そうとする
- 一文無しになるまでギャンブルをする
- ギャンブル資金のために借金をする
- 予定よりも長くギャンブルにのめりこむ
- 資金のために違法行為を企てる

Company name

病的ギャンブラーの破滅とは？

- 自己破産、失業、社会的信用の失墜
- 家庭内の緊張、家族の離別、多重債務による経済危機などの家庭機能の喪失
- 不眠、抑うつや感情喪失、自責感、自殺願望、感情の不安定などの身体的・心理的ダメージ
- 失踪、窃盗・横領などの犯罪、自殺企図などの逸脱行動

Company name

病的ギャンブリングの現状①

- 調査では18歳以上の成人の1.6%にパチンコ依存の自覚があり、治療の必要を認めているギャンブラーの8割は治療機関の存在を知らない
- パチンコ業界の売り上げ30兆円を、2000万人のパチンコファンが支えていると単純に計算すると、一人当たり年間で150万円つぎ込んでいる計算になる

Company name

病的ギャンブリングの現状②

- 司法書士に相談があっても、病的ギャンブリングには介入が行なわれず、多重債務を整理するだけの支援にとどまっている
- 病的ギャンブラーは、多重債務の原因について「生活資金に困った」と説明し、ギャンブルに対するのめりこみについては認めようとはしない

Company name

病的ギャンブリングの現状③

- 都内の依存症を取り扱う病院・公的機関では、病的ギャンブリングは支援対象とされていない
- 学会のテーマとして取り上げられることもなく、治療方法について議論する場がない
- 厚生労働科学研究費補助金により、障害者対策総合研究事業の中で分担研究班が発足している

Company name

分担研究班からの報告(23年度)

タイプ I について

- 年齢30～50代、男女比20:7
- 大卒で正社員、年収は200～400万が最も多い
- 受診のきっかけは、本人・家族ともに「くり返す借金」だが、通院はほとんど月1回
- 借金の総額は500～2000万(貯蓄含まず)
- パチンコ・パチスロが大半、週1日～毎日

Company name

クリニックで支援の対象とするのは

- ギャンブリングによって多重債務などの経済的トラブルをくり返している
- 本人が治療の必要を否認している一方で、家族は何とか強制的にでも治療につなげたいと望んでいる
- たび重なる家庭内窃盗や、本人の虚言に家族が振り回され、家庭が機能不全に陥っている

Company name

平成18年度の外来初診統計①

- ギャンブリング関連の来談者は152名（本人、配偶者、親兄弟を含む）
- 本人の受診動機は「家族に強制された」、家族は「今後どうしたらいいかわからない」
- 「ギャンブル歴」15～20年・「開始から発覚するまでの期間」5～10年の層が最も多く、病的ギャンブリングによるトラブルが長期におよんでいることがうかがえる

Company name

平成18年度の外来初診統計②

- ギャンブルの種別はパチンコ・パチスロが約8割で、次いで競馬となる
- サラリーマン・公務員などの正社員や自営業が多く、フリーター・無職は少ない
- 借金総額は100～1000万円が約6割だが、収入が多いギャンブラーの場合には5000万円の負債を抱えている事もある
- 借入先は消費者金融が約7割を占める

Company name

受診する典型的なギャンブラー像

- 学生時代にパチンコ・パチスロ開始
- 就職後に消費者金融からの多重債務が発覚し、あわてた家族が一括返済する
- 結婚後もギャンブリングによる多重債務がくり返され、トラブル(債務整理・自己破産・転職・失踪・うつ・離婚・横領など)が生じる
- 受診時に「働いて借金を返すので治療は必要ない」と主張し、ギャンブリングがコントロール不能になっていることを否認する

Company name

受診する典型的な家族像

- 家系内のギャンブリング・大酒などによる浪費でトラウマが生じており、多重債務への恐怖からすぐに一括返済しようとする
- 何度も本人のトラブル・債務の尻拭いをくり返し、本人の金銭管理を行ない、問題をコントロールするため必死に努力する
- くり返されるギャンブリングに振り回され、途方にくれて情緒的な問題が生じている

Company name

病的ギャンブリング事例への基本方針

- 教育による家族介入と、本人へのリハビリテーション導入を包括した支援を行なう
- 家族機能の回復を図り、病的ギャンブリングへの適切な対応を学んでもらうため、家族教育プログラム・ギャマノン参加を促す
- 本人をリハビリ施設のプログラムに導入し、GA参加を維持しながら、自身の病的ギャンブリングに関する否認を解決する

Company name

ネットワークによる支援

- 全国でのフォーラム・・・問題の掘り起こし
- 精神科医師・・・病的ギャンブリングの診断
- 司法書士・・・家族が債務を返済しないための対応を指導
- 精神保健福祉士・・・家族教育プログラムを通して家族をギャマノンへ導入
- 回復者スタッフ・・・リハビリセンター運営と病的ギャンブリング回復プログラムの支援

Company name

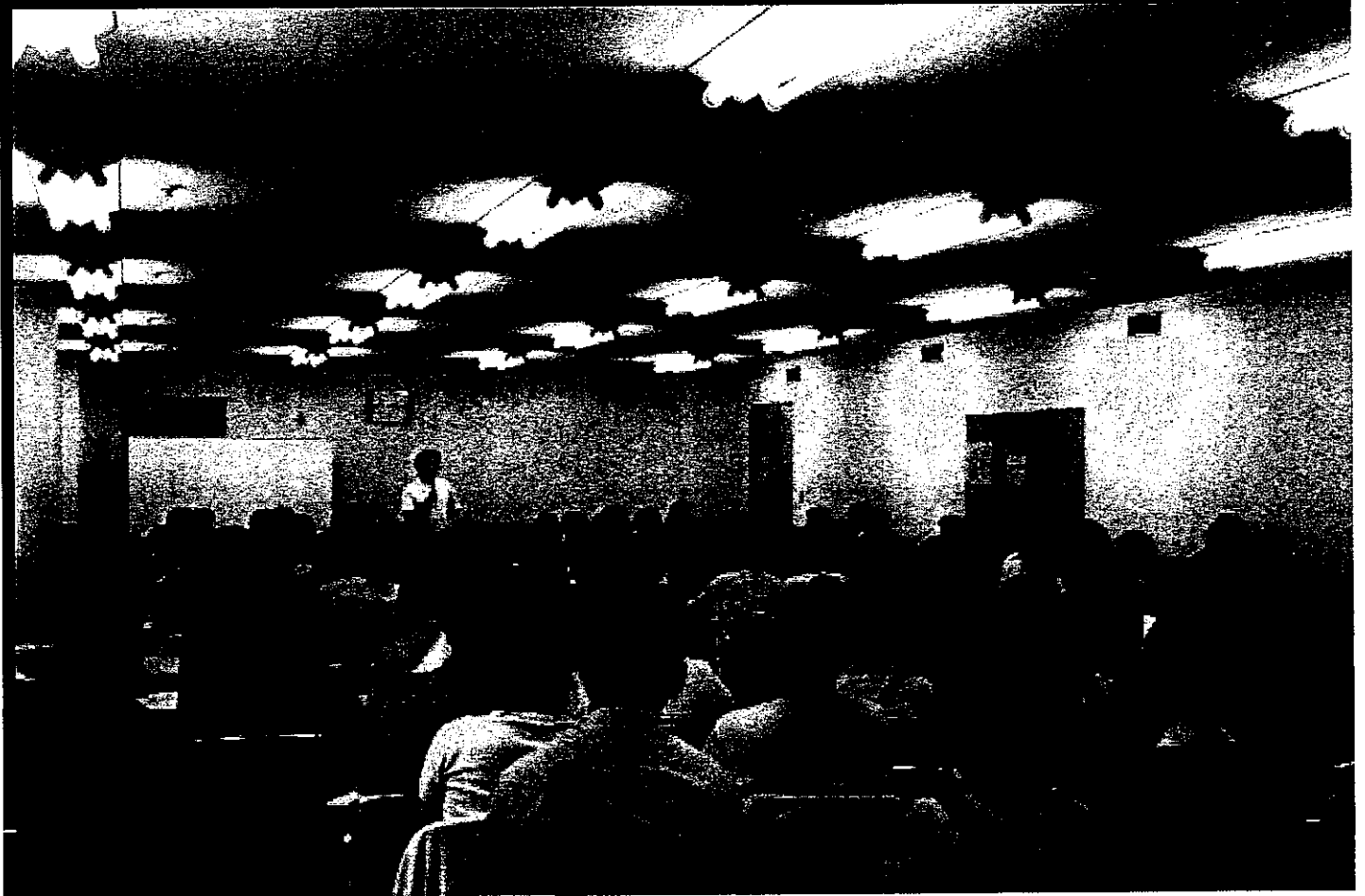
全国各地で開催されているフォーラム風景



フォーラムの効果

- くりかえされる多重債務とギャンブルに関連があることを家族が気づく
- 病的ギャンブルが回復するというメッセージが届く
- 地方における協力者の発掘や啓蒙
- マスコミ効果
- リハビリ施設のアピール

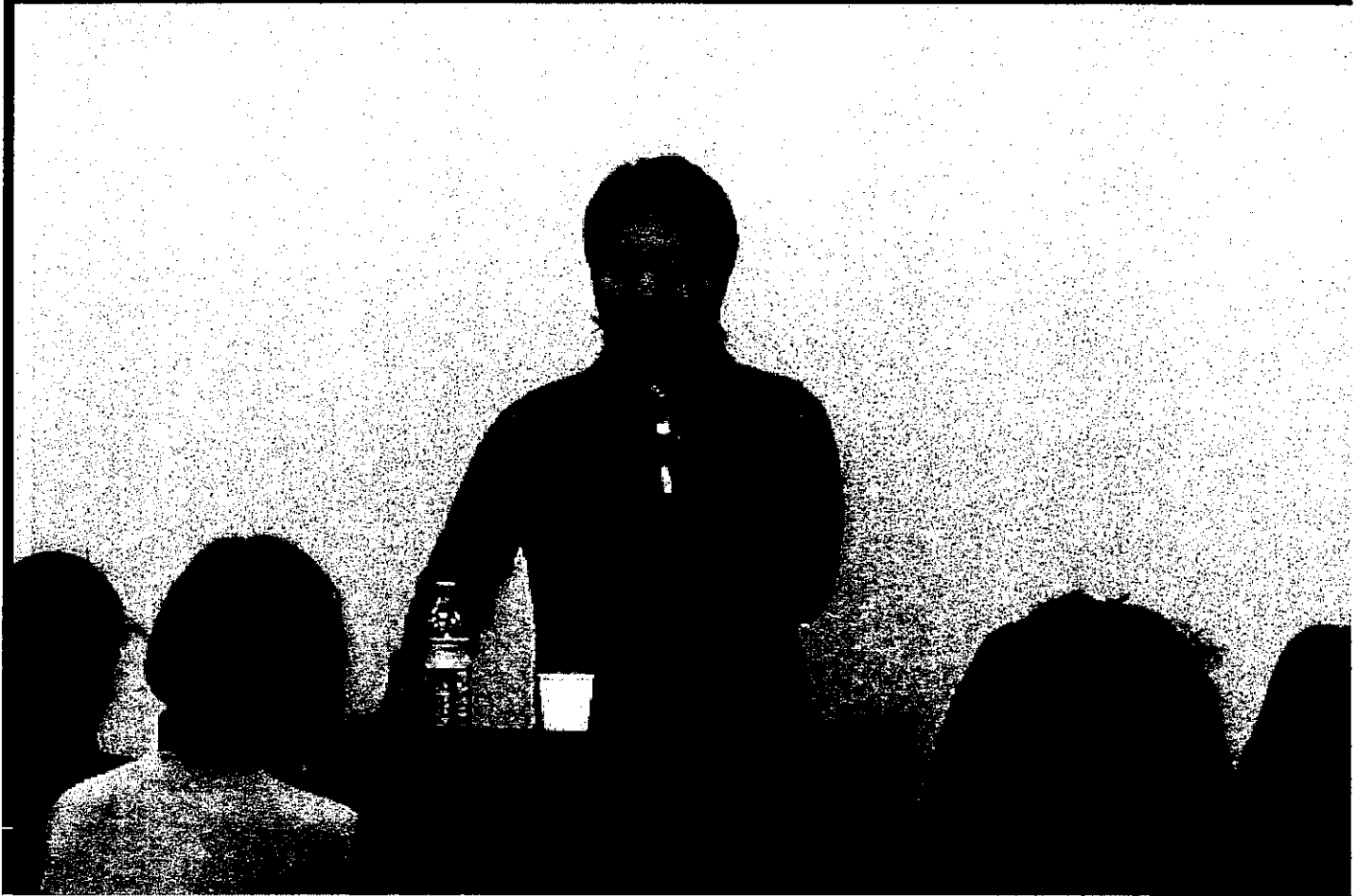
家族セミナー風景



家族セミナーの目的

- コントロールできないギャンブルと、くり返される多重債務を「病気の症状」と理解する
- 特別な病気ではなく、多くの人たちが苦しんでいる事に気づく
- 多角的な理解や対応が必要であることを知る
- 病的ギャンブラー本人より、家族を優先して教育を行い対策を立てる

医師による病的ギャンブリングの解説



ギャンブラーの病理を理解する

- 育て方には関係なく発症し、次第に個性を失い同じような経過をたどっていく
- 罪悪感を持たせようとするすると症状は悪化する
- 本人の行動は病的な信念に支えられている(いつか必ず勝つ、自分は特別だ)
- 病的な信念や意志を修正するには、家族・仕事と離れミーティング中心のリハビリプログラムが必要



借金に対する誤解を訂正する

- 一括返済すると融資額が拡がり、多重債務が増えながらくり返される
- 借りたものは返さなくてはいけない、というとらわれを見直す
- リハビリが終了するまで借金は棚上げにする
- ヤミ金には返済する必要はない
- 家族には返済義務はない

精神保健福祉士による家族グループ案内

家族グループの必要性

- 病的ギャンブルを理解する(知識の獲得)
- 病的ギャンブラーの行動に振り回されなくなる(冷静な思考の維持)
- 自分たちの行動が回復を遅らせていると気づく(共依存の概念)
- 家族自身も回復と成長が必要であると気づく(希望と目標を持つ)
- 家族も考え方や行動が変わる(機能回復)

クリニック主催の家族教育プログラム風景



教育プログラムのテーマ

- 病的ギャンブルを認めるまで
- 借金へのとらわれ
- 仕事へのとらわれ
- 家族とのかかわり
- ギャンブラーの嘘・家族の嘘
- リハビリ後の生活

リハビリ施設ワンデーポートの外観



ワンデーポートについて

- 2000年に病的ギャンブリングの回復経験者によって設立されている
- マックやダルクと同じようなプログラム構成
- 宿泊と通所プログラムを持っている
- 最低でも3ヶ月以上、平均1年前後入寮するケースが多い

リハビリプログラムのミーティング風景



プログラムを受けたギャンブラーの変化

- ミーティングで話される内容があまりにもひどいため、「俺はこんな連中とは違う」とショックを受ける
- 徐々に自分も同じ事をしてきたと思い出し、他のメンバーと変わらないことを認める
- 生まれて初めて「自分は病的ギャンブラーだ」と理解する
- ギャンブルをやめても自分には問題があることを知り解決に向けて行動する

啓蒙を目的とした出版

- 「病的ギャンブラー救出マニュアル」 PHP研究所、伊波真理雄編著 2007
- 「強迫的ギャンブラーとその家族の回復－何もかも失って」 ワンデーポート出版・訳、メアリー・ハイネマン 2001
- 「窮地に堕ちて－病的賭博者の家族のための実践ガイド」 近代文芸社、リンダ・バーマン、メアリー・エレン・シーゲル著、滝口直子訳 1998

Company name

まとめ

- 病的ギャンブリングは意志や反省では解決できない問題であり、専門的・多角的な理解と支援プログラムが必要である
- 多重債務を返済しないように、家族への介入・教育を中心とした支援を続け、行き詰まった本人にリハビリを勧めていく
- 軽度発達障害・精神遅滞などの重複障害ケースに対応するプログラム開発が課題

Company name

